

出会った人たちが連れてきてくれた未来

岐阜県総合医療センター 新生児内科 寺澤大祐

3歳3か月のとき、弟が生まれました。出生体重は1,500g。1か月が経っても保育器から出てこないことを訝しがる僕に、母はこう言いました。「弟くんは病気だから、いまお医者さんと看護婦さんが治してくれているんだよ」「じゃあ、僕が赤ちゃんを治すお医者さんになって、弟を治してあげるね」僕は、自分が発したこの言葉を信じ込みました。

中学1年生になったある日、弟の運動会に行きました。大人に腰を支えてもらいながら、懸命に歩く弟の姿を見て、ふと気づいたのです。「赤ちゃんを治す医者になっても、大人になった弟は治せない」と。その日、僕は「医者になるのをやめる」と宣言しました。すると父はこう言いました。「医者にならなくてもいい。でも、弟のように重い障害のある子でも、大人の支えがあれば歩けるかもしれない。大人になるというのは、誰かを支えられる人になることなんじゃないかな」なぜかこの言葉が、僕の心をとらえて離れませんでした。「やっぱり僕は赤ちゃんを治すお医者さんになろう。そして、弟のように障害とともに歩む子どもたちを少しでも減らせる人になろう。また、障害とともに生きる子どもと家族を支えられる大人になろう」そう考えて、医学部に進学しました。

医学部3年生のとき、県立病院長であった呼吸器外科医、柴田紘一郎先生に出会いました。柴田先生はこう教えてくださいました。「医者がやっちゃいけないこと、それは患者さんから希望を奪うことなんだ。テラちゃん、僕はね、明日肺がんで亡くなる患者さんにどうやって希望を伝えたらいいのか、まだ分からない。だから、まだ勉強しなくちゃいけないんだ」どのような絶望の淵にあっても、一筋の希望の光は必ずある。それを見つけ、伝えることが医師の役割なのだという信念は、その後の自分の歩みを大きく方向づけました。

新生児医療に深く関わるようになった頃、「医療的ケア児」という言葉が広がり始めました。弟との経験から、彼らと家族の生きづらさを実感していた僕にできることは何だろう、と考え続けていました。そんなとき、新生児科の先輩で倉敷で活躍されていた渡部晋一先生に出会いました。渡部先生は、「人が作った制度は、人が変えればいいんだ」と教えてくれました。この言葉を胸に、新生児科医としての仕事のかたわら、岐阜県の医療的ケア児支援に関する施策づくりに関わるようになりました。その経験がきっかけとなり、厚生労働省で働く機会もいただきました。晩年の渡部先生から「在宅人工呼吸を必要とする子どもたちに関する僕の仕事を君に引き継いでほしい」と遺言をいただき、現在もこの分野に関わり続けています。

やがて、僕の取り組みや考えに教育関係者の方々が関心を寄せてくださるようになり、教育分野での活動も広がっていきました。小学校から大学、特別支援学校まで、子どもたちに「いのちの理由」を伝える講演は、年間数十回に及びます。

<https://gifu-pta.jp/magazin/reason-for-life/>

自分が動くことをやめなければ、未来は出会った人が連れてきてくれる。それが、いま僕が考える「キャリアの積み方」です。

[著者略歴] 寺澤 大祐（てらざわ だいすけ）

2005 年 宮崎大学医学部卒業

2010 年 小児科専門医試験 不合格

2011 年 小児科専門医試験 不貞腐れて受験せず

2012 年 小児科専門医取得

2017 年 厚生労働省医政局地域医療計画課 救急・周産期医療等対策室 小児周産期医療専門官

2025 年 現職 岐阜県総合医療センター新生児内科主任医長

受賞歴

2025 年 日本新生児成育医学会教育委員会 最優秀講師賞

2025 年 風に立つライオン・オブ・ザ・イヤー2025 鎌田賞

資格・役職（2026 年 8 月現在）

日本小児科学会 小児科専門医・指導医、災害対策委員会 委員

日本周産期・新生児医学会 周産期（新生児）専門医・指導医、世界早産児デーWG 委員

日本新生児成育医学会 暫定フォローアップ認定医、代議員、教育委員会 委員、利益相反委員会 委員

日本呼吸療法医学会 代議員、小児在宅人工呼吸検討委員会 委員長

新生児医療連絡会 幹事

赤ちゃん成育ネットワーク 周産期からの子育て委員会 委員長

岐阜県教育委員会「いのちの教育」アドバイザー（2024 年～）

岐阜市教育委員会「生命の尊厳・生き方の探究学習」スーパーバイザー（2026 年～）

岐阜市立東長良中学校 PTA 会長（2026 年～）

岐阜市学校保健会 副会長（2025 年～）

岐阜市人権教育・啓発推進協議会 委員（2025 年～）

医療的ケア児・者支援の会 会長

NPO 法人 ひなたぼっこぎふ 副理事長

～ダイバーシティ・キャリア形成委員会より～

「歩みを方向づけるもの ～出会いと言葉～」

今の自分にまったく迷いが無い人は、どれほどいるのでしょうか。物心がついた頃から今日までの歩み、そしてこれから進んでいく道には、それぞれに強い意思や迷い、葛藤があるものだと思います。

そんな中でも、自分なりの軸を持って歩みながら、周囲に目を向ける姿勢を忘れずにいると、何気ない景色や出来事が特別な意味を帯びて見えたり、大切な人との出会いに気づいたりすることがあります。また、誰かの言葉がふと心に響き、自分の進むべき方向を大きく示してくれることもあります。

だからこそ、迷っている時ほど頑なにならず、少し肩の力を抜いて周囲を見渡してみることが大切なかもしれません。そうすることで人との縁に恵まれ、新たな道が開かれていきます。

そして寺澤先生のように、出会いや言葉を受け取るだけでなく、今度は自分自身の存在や言葉が誰かの心に届き、その人の歩みを方向づけるものとなっていくのでしょう。